

現状の課題

- ・児童自身に「わかる」「できる」を実感させることが難しい。
- ・教科化に向け、評価のあり方について不安がある。

課題解決のための手立て

- ・全単元のCAN-DOカード作成をもとにした小学校版CAN-DOリストの作成
- ・ICTを効果的に活用した授業実践
- ・他校種間の授業研究会参加・小中共通の意識調査の実施(学習目的・方法等)

具体の取組の内容

取組事例① 指導と評価に役立つ1単元1枚のCAN-DOカード

表
CAN-DO

裏
自由記述

4段階で、自己評価の基準を示す。

単元を通した自己成長がわかるよう単元1枚で作成。

一年間分を集積し、小学校版リストを作成

目標を扱う指導計画内の時間を明記。この授業の終わりには、必ず4段階で自己評価。

本時以降も、目標に近づいたら、ポイントの上がった日付けを記入。

カード裏面は自由記述。学習ノートのように覚えておきたいことを書く児童もいる。

成果①

- ・身につけるべき達成目標を単元計画に明確に位置付けて、指導できた。児童にとっても、活動の目的や意味づけが明確になった。
- ・自由記述に、学習内容に関する記述が増えた。
- ・文字・発音・リズム・語彙・表現に関する気付きや友達の取り組みの良さを、カードを紹介することにより、児童間で共有できた。
- ・児童のつまずきや困難さに教師が気付き、補充指導へ生かすことができた。

成果②

- ・ほぼ毎時間、電子黒板を使った授業を展開。映像・画像・音声が、児童の学習内容理解に大いに役立った。
- ・新教材のデジタルコンテンツは、新学習指導要領がめざす英語力・コミュニケーション場面を教師自身がイメージすることができ、教材研究として大いに役立った。

今後の課題・方向性

- ・小学校版のCAN-DOリストについて、特に小中の接続時期について、より丁寧に見直し、円滑な接続に配慮する。
- ・小学校4年間で扱う言語活動の話題・内容についても、目標同様に洗い出し、学年間の系統性を整理するとともに、中学校との連携をはかっていく。
(地域性・発達段階を考慮した言語活動の構築)
- ・即興性に対応する話す力をつけるために、小中共通のリアクションシートを作成し、学習の積み上げを生かしていく。
- ・指導に生かせる適切な評価方法については、さらに研究が必要。

取組事例② ICTを効果的に活用した授業実践

- ① 新教材のデジタルコンテンツ
 - ・学習の方向づけ・基本表現への慣れ親しみ(歌・チャンツ)
 - ・活動や会話、スピーチのモデル
- ② 絵本の提示
- ③ 写真・クイズ・地図などの提示(英語理解の補助)
- ④ 児童のスピーチでの資料提示
- ⑤ 自作資料の提示
- ⑥ 学習形態や活動の仕方の提示

